別記様式第４号（その２）

教　育　研　究　業　績　書

2023年　5月　1日

氏名　油谷　和恵　印

研究分野	研究内容のキーワード
看護学	看護技術、老年看護学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例 1)基礎看護学実習Ⅰ	平成30年5月21日～25日、令和1年5月21日～24日、令和2年8月24日～28日、令和4年5月9日～13日	入学直後の学生を対象に、看護職のシャドーイングを通して「医療現場とはどのようなものか」を多角的に捉え、将来なりたい看護職像をイメージし、今後の学修への意欲につながるよう指導に努めた。
2)健康行動とヘルスプロモーション	平成30年9月～2月、令和1年9月～2月、令和3年9月～2月	授業副担当として、グループワークのファシリテーターや、演習指導を行った。学生の主体性を重視しながら、いろいろな視点から気づきを得られるようなアドバイスを行った。
3)基礎看護学実習Ⅱ	平成31年3月11日～15日、平成31年3月9日～13日、令和4年3月7日～11日	1年次に学んだ基礎看護技術を看護職とともに実施できる機会をできるだけ多くとれるようアレンジし、学生が自己の看護技術を振り返ることで改善点を見出し、今後の実習に向けて意欲的に学びを進められるような指導に努めた。
4)基礎看護学実習Ⅲ	令和1年7月15日～26日、令和4年6月27日～7月8日	学生が初めて実際の患者を受け持つ実習として、情報収集、患者のニーズの把握、そこから看護問題を明らかにし援助技術計画の立案、実施、評価、修正の指導を行った。実習指導者と協力し、学生の技術実施のサポートや見守りを行い、より患者の個別性に合わせた計画に修正を重ねられるよう指導を行った。
5)基礎看護援助技術Ⅱ	令和1年4月～7月、令和2年4月～9月、令和3年4月～9月	「創傷管理、包帯法」単元の主担当を行った。講義では文献を多用し、エビデンスに基づいたケアの重要性を伝えられるよう、例えを交え分かり易く説明するよう努めた。演習では看護師としての実施だけでなく患者役も体験することで、双方の視点からケアの重要ポイントを実感できるよう努めた。
6)健康教育演習	令和1年9月～2月、令和3年9月～2月	授業副担当として、様々な発達段階における個人、集団への健康指導案作成におけるアドバイスを行った。
8)成人高齢者看護援助Ⅱ	令和1年9月～令和5年2月	授業副担当として、グループワークのファシリテーターや、演習指導を行った。学生の主体性を重視しながら、いろいろな視点から気づきを得られるような指導を行った。
7)成人高齢者看護援助Ⅰ	令和1年9月～令和5年4月	授業副担当として、グループワークのファシリテーターや、演習指導を行った。学生の主体性を重視しながら、いろいろな視点から気づきを得られるようなアドバイスを行った。

9)生涯発達における援助技術	令和2年7月、8月、令和3年6月、7月、令和4年6月、7月	成人、老年看護分野の技術演習「インスリン自己注射」「嚥下機能が低下した高齢者の口腔ケア」の主担当を行った。実施時のポイントを説明しながらデモンストレーションを行い、学生がモデル人形を用いて技術を実施する際はそれぞれの学生にフィードバックを行い、発表で学生が個々の学びを共有できるよう工夫した。
10)成人・高齢者看護学実習Ⅰ	令和3年9月～令和5年2月	急性期にある患者の情報収集、患者のニーズの把握、そこから看護問題を明らかにし援助技術計画の立案、実施、評価、修正の指導を行った。実習指導者と協力し、学生の技術実施、見守り、情報の整理やアセスメント、計画推敲のサポートを行い、より患者の個別性に合わせた計画に修正を重ねられるよう指導を行った。
11)成人・高齢者看護学実習Ⅱ	令和3年9月～令和5年2月	慢性期患者の情報収集、患者のニーズの把握、そこから看護問題を明らかにし援助技術計画の立案、実施、評価、修正の指導を行った。実習指導者と協力し、学生の技術実施、見守り、情報の整理やアセスメント、計画推敲のサポートを行い、より患者の個別性に合わせた計画に修正を重ねられるよう指導を行った。
12)成人・高齢者看護学実習Ⅲ	令和3年9月～令和4年2月	高齢者施設に入所している対象者の「生活の場」における、その方の持てる力の維持・向上を目指した援助について、学内実習で事例展開を行った。情報の整理やアセスメント、計画推敲のサポートを行い、より患者の個別性に合わせた計画に修正を重ねられるよう指導を行った。
13)看護課題の探求	令和4年4月～現在	学生が領域実習を経てさらに深めたいと考えた看護課題について、エビデンスに基づいた看護を実施・評価、考察できるよう指導を行っている。
14)統合実習	令和3年7月12日～23日、令和4年7月11日～22日	看護課題の探求で学生が各々考えたテーマについて、2週間の中でエビデンスに基づいた看護を実施し理解を深められるよう、病院や患者との調整を行いながら学生を指導している。
1) 金沢大学医薬保健学域保健学類基礎看護学演習補助（TA）	平成24年4月～平成26年3月	授業ごとに5～6人の学生を担当し、基礎看護技術の技術指導を行った。学生が正しい根拠のもと技術を習得できるよう教材等を用い、具体例を示しながら、演習中及び技術試験前の学生自己練習時に指導を行った。
2) 金沢大学医薬保健学域保健学類基礎看護学実習補助（TA）	平成24年4月～平成26年3月	実習開始時の点呼、学生が記録類を正しい方法で書けているかを確認した。また、実習中に体調を崩した学生の対応などを行った。
2　作成した教科書，教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
4　実務の経験を有する者についての特記事項 1) 聖路加国際病院　看護学実習病棟担当者	平成26年4月～平成30年3月	学生が立てた看護計画、患者の全体像の捉え方、アセスメント等の確認と指導、看護技術の指導などを行った。
5　その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許 1）看護師免許 2）保健師免許	 平成20年3月 平成20年3月	 第1430885号 第155698号
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
4　その他 1）学会等における受賞 ・日本フットケア学会 ・看護理工学会	 平成24年3月 平成28年10月	 示説「日本透析患者における足部血流アセスメントの指標の検討」で優秀演題として推薦された。 「糖尿病患者における皮膚外観を用いた下肢血流低下アセスメント指標の評価」で看護理工学会学会賞を受賞した。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 1「血液透析患者の足部皮膚外観と下肢血行との関係」 （修士学位論文）	単著	平成20年3月	金沢大学大学院	血液透析患者では動脈硬化が進んでおりPAD合併率が多いと言われており、また透析患者のPADは末梢、特に下肢遠位に多くみられることから、血液透析患者の下肢PAD早期発見が重要である。 看護師の行う下肢皮膚色や皮膚外観からの血流アセスメントは簡便で短時間で実施可能だが、主観的な評価方法のため、看護師間での結果共有が困難である。 そこで、皮膚色や皮膚表面形態を、機器を用いた測定により数値化し、下肢血行との関係を明らかにすることを研究目的とした。 結果、血液透析患者の足部血流を最も良く説明する指標は皮膚の赤味を示すa*であることが示唆された。これにより、従来の皮膚外観からの血流アセスメントに客観性が示された。
2「糖尿病患者における皮膚外観を用いた下肢血流低下アセスメント指標の評価」 学会賞受賞	共著	平成27年10月	看護理工学会誌2巻1号(2015)	糖尿病は末梢動脈疾患のリスクであり、悪化すると下肢切断にいたることがある。糖尿病患者のフットアセスメントの一つに皮膚の観察がある。本研究では皮膚の色および皮膚の表面形態と測定機器を用いて数値化し、下肢血流低下との関連を調査した。 結果皮膚色a*とb*が2群間で差があり、下肢血流低下に最も関連したのは赤味の指標であるa*であった。糖尿病患者においてPADを示唆する下肢血流低下の状態では皮膚色はより暗い赤みを呈し、今後皮膚色を用いてアセスメントすることの有用性が示唆された。 共同研究により抽出不可 大桑麻由美，油谷和恵，鈴木基子，前馬宏子，藤本由美子，臺美佐子，須釜淳子 油谷担当分：研究計画、データ収集、分析
（その他）				